



子どもの皮膚トラブルで多く耳にする「とびひ」。どのような病気かご存知でしょうか？

とびひとは？どのような病気??



「とびひ」の正式名称は「伝染性膿痂疹（でんせんせいのうかしん）」といいます。細菌が皮膚に感染することで発症し、人に移る病気です。掻きむしった手を介して、水ぶくれ（水疱）があっという間に全身へ広がる様子が、火事の火の粉が飛び火することに似ているため、「とびひ」と呼ばれています。

とびひには水ぶくれができるもの（水疱性膿痂疹）とかさぶたができるもの（痂皮性膿痂疹）があります。アトピー性皮膚炎の患者さんは皮膚のバリア機能が低下しており、とびひにかかりやすいので注意しましょう。



すいほうせいのうかしん
水疱性膿痂疹



かひせいのうかしん
痂皮性膿痂疹

【太ももにできたもの】 【鼻はとびひになりやすい】 【肘にできたもの】

どうしてとびひになるの??



とびひは、虫刺されや汗疹、皮膚の乾燥などを掻きむしったり、小さな怪我でできた皮膚の傷に細菌が入り込み、感染することで発症します。

とびひの原因となる菌は「黄色ブドウ球菌」「化膿連鎖球菌」と言われる、健康な人の鼻の中やのどにいる常在菌です。

日常生活で気を付けることは??

「とびひ」にならないようにするためには・・・

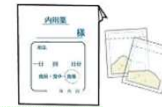
- **日ごろから、皮膚を清潔に保つ**
手を良く洗い、爪は短めに切っておきましょう。
- **鼻をいじらない**
鼻の中には、とびひの原因となる細菌がたくさんいます。鼻の中をいじった手で体などを掻くと、とびひにあることがありますので注意しましょう。
- **アトピー性皮膚炎の患者さんは特に注意が必要**
アトピー性皮膚炎の患者さんは、外からの刺激や有害物質から体を守ったり、体内の水分が外に逃げていかなないようにする働きが低下しているため、細菌に感染しやすく、とびひにかかりやすい状態にあります。



とびひになってしまったら・・・

とびひの原因となる細菌を退治する治療を行います。かゆみが強く、掻いてしまう場合はかゆみを抑える治療も行います。とびひは、ひどくならないうちに治療を始めると、より早く治すことができます。気になる症状があれば早めに小児科や皮膚科を受診しましょう。

とびひの主な治療は抗菌薬（抗生物質）です。症状の程度によって、軟膏（塗り薬）と内服治療を使い分けたり、組み合わせたりします。



「とびひ」になったときに気を付けることは・・・

- **患部を掻いたり、いじったりしない**
患部を触った手を介して症状が広がることがあります。触らないように注意し、通気性の良いガーゼで保護することをおすすめします。
- **皮膚を清潔に保つ**
原因となる細菌を減らすため、入浴して皮膚を清潔に保つことが大切です。患部はこすらず、石けんをよく泡立て、泡で丁寧に洗い、シャワーですっきりすすいでください。
- **タオルや衣類は共有しない**
タオルや衣類を介してとびひが移ることがあります。共有しないようにしましょう。

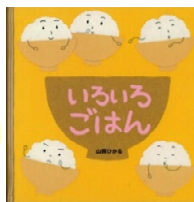


今月の絵本

いろいろごはん 作 山岡ひかる

ごはんて すごいね
いろいろなものに 変身できるよ
食べたなら笑顔で 元気になるね
みんなはどんなごはんが 好きかな？
読むとお腹がすきそうなお絵本です。

クリニックの
本棚にあるよ♪



おしらせ

夏かぜと言われる感染症や、ウイルス性胃腸炎が流行しています。みなさん、感染に気を付けてください。

7/18 (水) と 7/20 (金) は診療時間の変更がありますのでご確認ください。また、来月は8/11 (土) ~ 8/16 (木) が休診となりますが、8/15 (水) は小児科当番院となっています。

次回もお楽しみにー

